

会員の皆さんへ

理事長 中川忠宣

「おおいた教育の日」に想う

「おおいた教育の日」が今年も11月1日に記念行事が開催され、上原嵯理会員が参加したレポートを掲載していますが、当法人の原点を思い起こしています。

平成17年に大分県の「おおいた教育の日条例」の制定の中で、「教育の推進」と併せて「協育」の取組が始まりました。

「教育」は学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担うことを目的としていますが、当時、それぞれの教育機能を融合させる手段として「協育」という言葉を作って、大分県教育委員会として「地域協育振興プラン」を策定しました。その後、その趣旨に賛同していただいた皆さんと大分大学での研修を通じて「NPO法人大分県協育アドバイザーネット」を設立しました。私たちの取組はこうした流れの中での活動を続けてきました。

会員の皆様には、それぞれの地域での重要な役割とともに、地域の方々の理解と協力をいただきながら地域作りのための活動に誇りと意欲を持ちながら「おおいた教育の日」の一端を担っている誇りを持ちながら活動をしていきましょう。コロナの関係で会員の皆様には大変な一年でしたが、来年こそは私たちの活動が広がることを願っています。皆様には良いお年をお迎え下さい。

第16回「おおいた教育の日」推進大会に参加



11月1日は「おおいた教育の日」ということで、推進大会に参加して来ました。大会の構成は第1部にエッセー受賞者による朗読、第2部に「津久見檜の実少年少女合唱団」と「津久見高等学校」からの実践発表、そして第3部は教育実践研究家の菊池省三先生による記念講演となっていました。

津久見檜の実少年少女合唱団は今年で41周年を迎え、古くからの伝統を受け継いだ合唱がとても魅力的でした。「歌は心の表現です。」という紹介から、合唱が始まり後ろのスクリーンに介護施設での合唱や子どもたちへ合唱をする様子が映し出されました。合唱を聴き「歌は心の表現です。」という言葉の意味が分かったと同時に、スクリーンに映し出された人たちの笑顔の理由も分かりました。そのくらい津久見檜の実少年少女合唱団の合唱は素晴らしかったです。

津久見高等学校による実践発表は地域と連携した体験活動の「つくみ蔵」の活動を紹介していました。つくみ蔵は津久見高等学校の生徒が津久見の魅力を知ってもらうために地産地消の意識で商品開発をしている部活動です。まず小学生つくみ蔵体験学習についての発表がありました。高校生が考えた商品を買ってもらう為に、どのような広告を作成すればいいかを小学生たちが話し合う様子やどのような声掛けをしたら買ってもらえるかを一生懸命考える姿がとても印象的でした。体験している小学生だけでなく、小学生への説明や企画を考える高校生にも学びがある実践だなと感じました。またつくみ蔵によるヘルシー給食メニューの開発という実践発表もありました。津久見の小中学生の肥満度が高いことから津久見の特産物を使ったヘルシー給食の開発に奮闘していました。高校だけで完結するのではなく、小中学校とやり取りすることで中高連携の更なる強化や地方活性化へのワンステップになるだろうなと感じました。

最後は、教育実践研究家の菊池省三先生による講演です。演題は「コミュニケーション力あふれる子どもを育てよう」です。1時間があっという間に過ぎ、菊池先生が出す空気感と放つ言葉に心が震えたのを今でも鮮明に思い出すことができます。「ほめる」に重きを置き、「公に通用する人を育てる」ことを信念にしている菊池先生。だからこそ、まず一人ひとりの違いを認めることが豊かなコミュニケーションになると仰っていました。また良い教室とは、自信と安心がるからこそその笑顔が溢れ、活動をする時の動きもスムーズであると言っていました。暖かく、プラスな空気感で溢れた教室は、教師自らプラスな言葉かけを行ったり明るく元気で過ごしたりするべきである。つまり「教室は鏡である、鏡は先に笑わない」と言っていました。この言葉を聞いて私自身とても気付かされた部分が多くとても印象に残っています。半日ではありましたが大分県最大の教育イベントの成功は、会場全体からの大きな拍手が表していたように感じました。(上原 嵯理)

会員さんの活動紹介

今回は理事長と取材活動！湯布院の八川さんを訪ねました。



八川 徹

由布市教育委員会委員

現在の役職

現在私は主に農業をしています、ほかに由布市教育委員会の委員をやっています。任期は4年ですが早いものでもう三期目(10年目)となりました。

現在の活動

普段は米や野菜作りと自分が使う農機具・機械のメンテナンスや修理をしています。社員時代技術者であったことや職業訓練指導員の経験を生かし、由布市少年少女発明クラブの運営委員及び指導員をしています。コロナ禍の為に開校が8月にずれ込んでしまいましたが、大分県で10番目の少年少女発明クラブをスタートすることが出来ました。科学やものづくりの不思議や楽しさを次世代に繋いで行ければ良いと思っています。



(八川さんと中川理事長) 八川さん元気でしたよ～

由布市教育委員の活動

由布市教育委員として三期目となり、委員の中で最長の10年目に入っていました。私の立場は地域の代表という目線で教育行政を見て行く役割を担っています。他に行政経験者、校長経験者、保護者代表の委員がいらっしゃるのです。その方々と協力しながら市の教育行政をより良いものにして行く活動をしています。教育委員会と言うと学校教育の事が表に出がちですが、社会教育やスポーツ振興など多くの取り組みをしています。

コロナ時代における学校運営

今、世の中ではコロナ禍の影響拡大によって社会構造の変革が求められています。もちろん学校現場でも同じことが言えます。今後ウィズコロナ時代としてどのような学校運営をしていくか大きな課題であると言えます。感染拡大を抑えながら子供たちの学ぶ権利を確保していくためにも今年度中にある程度リモート学習が出来る環境を整えて行く予定です。また、子どもの自己肯定感を高めて行く活動もこれからの大きな課題と言えるでしょう。そのためにも少ない時間で大きな効果を上げられるような効率的な体験学習が必要となってきます。

協育ネットの皆さんへ一言

家庭と学校と地域社会それぞれがうまく連携して様々な体験を通して自己肯定感を高めていく、これは年代を問わず必要なことであると考えます。これからのウィズコロナの時代を生き抜くためにも私たち協育ネットが果たす役割は大変大きくなっていくと考えます。

事務局よりお知らせ <2021年(R3年)> 第13回 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会

テーマ **地域と学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりを語ろう**
～地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な取組みを目指して～

主催 NPO法人大分県協育アドバイザーネット／東国東地域デザイン会議
／大分大学高等教育開発センター

会場 「梅園の里」(国東市安岐町富清2244)
☆梅が咲き誇る三浦梅園生誕の地～「梅園の里」～☆

期日 令和3年(2021年)2月27日(土) (定員60名程度)

日程 10:00(開会)～16:20(閉会)

10:20～12:20 第一部 地域での実践活動の発表(4例)

13:10～14:20 第二部 地域と学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりを考える

14:50～16:20 特別講演 <講師> 井上 尚子 氏 文科省委嘱 CSマイスター

NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク事務局長

(こちらからが簡単です)



(申込QRコード)



(大会ポスター)

広報部よりお知らせ

NPO法人「協育」ネットの初代理事長の園部さんが12月4日にご逝去されました。理事3名でお別れに伺いました。少し前の10月16日に理事長と上原でお宅へ伺っていろいろなお話をさせていただいたのが最後になりました。当法人の設立の時から穏やかな笑顔と誠実なリーダーシップで私たちをリードしていただき感謝の気持ちで一杯です。心からご冥福をお祈りいたします。(上原)